

「二つの言葉」

小牧市立味岡中学校 3年

あなたには、好きだと思う友達がありますか。好きだと思う景色がありますか。私にはあります。それには、私が二つの言葉から得た、友達との関わりや学校生活の中で大切にしている考えが大きく関係しています。

私は、第一印象や、人から聞いた話などから、この人はこんな人だ、と決めつけてしまうことがよくありました。その一部の情報だけで、合わないかもしれない、苦手だと思いきることが多かったのです。そんなとき、「まるごと好きです」

この言葉に出会いました。相手の好きなところを見つけたら、まずは嫌いなところも含めてまるごと好きになる。そして、その人の好きな部分にだけ拍手する。その考え方は、私にとって驚きでした。人にはいいところも嫌なところもあるに決まっている。それはわかっているけど、嫌なところしかない人なんていない、とは考えたことがなかったからです。それから私は、出会う人それぞれの、「好きな部分」を見つけながら過ごしてきました。いつもお喋りだけど、優しく声をかけてくれる人。頼りないけど、誰よりも早くまわりのことに気づける人。いつもふざけているけど、真剣に話を聞いてくれる人。きっとその視点を持って生活していなければそれらの点に気づかないまま終わっていたでしょう。友達の良さはたくさん見付き、そのたびにその人の良さをもっと知りたい、もっとその良さに触れたいと感じ、温かい気持ちになりました。その仲間たちからのたくさんの学びが今の私に繋がっています。

また、私の学校生活に対しても、考え方が変わるきっかけがありました。私の中学校生活は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。これまで先輩方が大切に思いを受け継いでこられた体育祭や文化祭などの行事の変化、毎日の黙食、宿泊行事の中止など、数年前だったらな、と考えるしまうこともあります。そんなとき、私は一つの詩に出会いました。その詩、「世界はうつくしいと」、次の言葉に私ははっとしました。「あざやかな毎日こそ、私たちの価値だ。」

ニュースと呼ばれるような日々の破片が、私たちの歴史ではない。その詩に感銘を受け、ニュースでは知ることのできない、身近にある景色、今までの学校生活を見つめ直してみました。親身になってくださる先生方との出会い、生徒会役員選挙運動のときに手を握ってくれた友達、地域の方が植えてくださった季節の花。すべて今のこの時代に生まれていなければ体験できなかったことです。今しかすることのできない体験、見ることができない景色をより大切にすることで、毎日が豊かになりました。

これらの二つの言葉から、私は巡り合った人や物事に対して、「よく観察して、その良さを大きく見る」ことが生きていくうえで大事だと考えるようになりました。まず、そのものをよく観察して、良さを見つける。その良さに対して、憧れたり称えたりする。嫌いとか苦手とか、そういった部分を見るよりも、自分が好きで、いいなと思う部分を見ることのほうがずっと楽しい。「良さ」を見たり、考えたりすると、困難を乗り越える力や、生きる希望をもらえる気がしませんか。

世の中は暗い話題に溢れています。感染症、災害、戦争、挙げればきりがありませんが、暗いことばかり見つめていても、希望は見いだせないのではないのでしょうか。私自身、一人で抱えていたときに、たくさんの人、ものに救われ、勇気ももらってきました。それはたぶん、社会に出てからも、もっと大きな問題であったとしても同じだと思います。暗闇にいるときこそ、これらの言葉、友達や、自分の好きな景色を思い出して未来に光を見つけていく、それが私の生き方です。私は、この考え方をもっとたくさんの人に伝えていきたいです。